



胃拡張胃捻転症候群（GDV）

■ 病気の概要

胃がガスで急激に膨らみ、捻転（ねじれ）を起こす命に関わる状態です。ジャーマン・シェパード・グレート・デーン・ゴールデンレトリバー・ラブラドルなどの大型・深胸犬種に多く見られます。発症から数時間で命に関わるため、「えずくのになにも出ない」「お腹が膨らむ」症状が見られたらすぐに受診が必要です。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・お腹が急激に膨らむ（特に左側）
- ・何度もえずく・嘔吐しようとするが何も出ない（重要サイン）
- ・よだれが大量に増える
- ・苦しそうにする・落ち着きがない
- ・立ったままぐったりしている

■ どんな検査をするの？

- ・身体検査（お腹の張り・全身状態の確認）
- ・レントゲン検査（胃捻転の特徴的な像を確認）
- ・血液検査（重症度の確認）

■ 治療方法

内科治療

- ・緊急胃減圧（胃のガスを抜く処置）
- ・点滴・ショック治療

外科治療

- ・緊急開腹手術（捻転整復＋胃固定術）：手術しないと再発・死亡リスクが非常に高い
- ・胃壊死がある場合は部分切除

■ ご家庭で気をつけること

- ・食後1～2時間は激しい運動を避ける
- ・1回の食事量を少なく、1日2～3回に分けて与える
- ・食後の行動を観察する習慣をつける

■ よくある質問

Q. 手術しないといけませんか？

A. 緊急手術が必要です。胃減圧だけでは捻転は治らず、再発します。

Q. 助かりますか？

A. 早期受診・早期手術で生存率は大幅に改善します。発見したらためらわずすぐにご連絡ください。

Q. 予防できますか？

A. 予防的胃固定術で GDV の発症リスクを大幅に下げることができます。発症しやすい犬種のオーナーさんにお勧めしています。

■ なつ動物病院での診療について

診察時間内であれば可能な限り対応します。発症しやすい犬種のオーナーさんには予防的胃固定術のご相談もお気軽にどうぞ。夜間・時間外の場合は、北九州夜間救急動物病院（車で約 40 分）または福岡夜間救急動物病院（車で約 90 分）をご利用ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください